

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	佐藤 容

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県屋久島町
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島フィールド実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 18 日 ~ 平成 26 年 10 月 24 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
湯本先生、半谷先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、シカ班としてサンプルの収集や解析、プレゼンテーションを行った。 シカ班はヤクシカの糞サイズと体サイズの関係についての調査を目的とし、10月19日から21日までの3日間でシカの追跡およびサンプル収集、22日に解析とプレゼンテーションの準備、23日に発表を行った。 サンプルおよびデータの収集は以下の手順で行った。
1. 対象とするシカを決め追跡した。2. 対象シカの排糞を確認したら、体高を知るために対象個体をビデオもしくはカメラで撮影した。このとき、周囲の木や岩など比較対象になりそうなものを一緒に画面内におさめるようにした。3. 対象個体とその場を退いた後、巻尺を持った人が対象個体のいたポイントに向かい再度撮影を行った。また撮影者は位置を動かないようにした。4. 糞の表面を綿棒で撫で、バッファーに溶かしてDNA測定用のサンプルを得た。5. 糞サンプルの回収を行った。6. 宿舎に戻ったのち、各糞サンプルの短径と長径の測定を行った。また、ゲノム実習のホルモン測定用に各個体5粒ずつ取り出し、冷凍庫に保存した。7. ビデオの映像より各個体の肩から蹄までの長さを推定し、これを体高とした。
今回の調査では、以下のことがわかった。
1. ヤクシカにおいて、糞サイズ(短径と長径)と体サイズには有意な差は得られなかった。 2. 成獣と幼獣の間においては、体サイズおよび糞サイズ(短径と長径)に有意な差がみられた。 これらのことより、糞サイズは年齢を知るための指標として用いることができるという結果となった。
この調査における今後の課題としては、体サイズの測定精度の向上やより広い年齢層のサンプルを収集する必要性などが挙げられた。

写真 1. 雌のヤクシカ(体高測定用に撮影したもの)

写真 2. シカの近くにはサルがいることも
6. その他 (特記事項など)
今回の実習では、普段の研究活動では得がたい貴重な経験をさせていただきました。このような機会を設けてくださった皆さま、そして指導していただいた先生方に心より感謝申し上げます。